

(地域施策推進事業)

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主 体	事 業 対 象 者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
総務企画 部	菊地 智 英	地域企画 課	地域振興 班	佐藤 徳 司	0185-55- 8004	能代港利活用推進事業	能代港利活用を推進する 必要がある。	271,000	直営	「能代港利活用推進講演 会」の開催等を行った。	山本地域振興 局 能代市(能代港 湾振興会共催)	能代港湾 振興会会 員等	平成25年4月1日	能代港の取扱貨物量の増 加及びリサイクル貨物の 確保を図る上でターゲット となる東南アジアの経済 事情を把握し、企業の国 際展開と地域産業の振興 を考える契機となった。	取扱貨物量を増加させる ためにはコンテナ船での 海上輸送需要の高まりが 必要である。また、これに 向け、地元企業の活性化 のほか、港内工業団地へ の企業誘致が必要であ る。
						平成26年3月26日									
総務企画 部	菊地 智 英	地域企画 課	地域振興 班	佐藤 徳 司	0185-55- 8004	再生可能エネルギー関連 産業創出・進出支援事業	再生可能エネルギー関連 産業の創出・進出を促進 させる必要がある。	410,000	直営	「再生エネルギー関連産 業勉強会」の開催等を行 った。	山本地域振興 局 能代市	能代機械 工業会会 員企業、 能代工業 団地連絡 協議会会 員企業等	平成25年4月1日	再生可能エネルギー関連 産業に係る事業への取組 と風力発電に係る最新の 国内動向が分かり、今後 の更なる事業展開の可能 性を探ることができた。	風力、太陽光発電事業へ の参入の動きは活発化し ているが、送電網の余力 不足問題の解消が必要。 送電網の整備を関係機関 に働きかけることが必要 である。
						平成26年1月31日									
総務企画 部	菊地 智 英	地域企画 課	しらかみ観 光振興班	佐藤 はる か	0185-55- 8006	能代山本における機能合 体推進事業	秋田DCへの対応や白神 山地世界遺産登録20周 年に向けた取組、その他 観光関連業務について、 振興局と管内市町により 設置した協議会(あきた白 神広域観光推進会議)に よる共同事業を行う。	2,600,000	負担金	平成25年7月14日から10 月27日までの計5回、あ きた白神周遊バス「白神日 和号」を運行し、延べ119 名の参加を集めるなどの 共同事業を行った。	あきた白神広 域観光推進会 議	観光客	平成25年4月1日	秋田DCの本格実施と白 神山地世界遺産登録20周 年記念事業に連携した取 組を行った結果あきた白 神地域の知名度・認知度 向上に寄与することがで きた。	あきた白神山地ルートの 一部通行止めを踏まえ、 登山・トレッキング以外の 多様な魅力を活かした誘客 を拡大し、観光資源の掘り 起こしや磨き上げを実施 する。
						平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで									
総務企画 部	菊地 智 英	地域企画 課	しらかみ観 光振興班	佐藤 はる か	0185-55- 8006	ぐるっと白神情報発信事 業	観光客の求める情報を的 確に発信することにより、 県外からの誘客を進める ため、青森県、JR東日本 等との連携による情報発 信や秋田DCや白神山地 20周年のPR等を行う。	3,332,000	負担金 (一部直 営)	青森県、秋田県、JR東日 本秋田支社の3者で構成 する「ブナの学校運営協 議会」が主催する「白神山 地世界遺産登録20周年記 念フォーラム」を、平成25 年7月6日に東京有楽町よ みうりホールで開催し、首 都圏在住者の約650人が 訪れた。	山本地域振興 局 JR東日本 青森県	観光客	平成25年4月1日	フォーラム参加者は地元 ガイド等がPRする白神山 地の魅力に熱心に耳を傾 けていた。また地域特産 品の販売やJR等が企画 する白神山地向け旅行商 品に対しても関心が高 かった。	あきた白神山地ルートの 一部通行止めを踏まえ、 青森県やJR東日本等と連 携しながら、従来の登山・ トレッキングに抛らない多 様な観光要素の付加によ る白神山地の魅力拡大を 図る。
						平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで									
福祉環境 部	石山 明	健康・予防 課	健康・予防 班	高島 樹 子	0185-52- 4333	無煙環境づくり推進事業	生活習慣病の発症には 「喫煙」の関連性が高いこ とから、新たな喫煙者を増 やさないための若年者へ のアプローチと、非喫煙者 を喫煙者からのたばこの 害から守る受動喫煙対策 を行う。	345,748	直営	若年者の喫煙を防ぐ教室 を開催した。  労働基準監督署と連携 し、就労者の健康と職場 の環境整備に関する学習 会の開催した。 食の健康づくり応援店「お いしい空間サービス店」の 登録促進とPRを行った。	山本地域振興 局	中学生  事業所 飲食店	平成25年4月1日	喫煙の害と、上手な断り 方について理解が深まり、 学校側からも好評をいた だいた。  職場の喫煙対策について は理解が深まったが、実 践するためには課題も多 い。 食の健康づくり応援店登 録数が増加した。	喫煙対策は生活習慣病予 防対策として、継続して取 り組む必要がある。
						平成25年5月1日から 平成26年1月31日まで									

部名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主体	事業 対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
農林部	高田 清晃	農業振興 普及課	就農支援 班	泉 誠 佐藤 菜々子	0185-52- 1241	海から山から地域の逸品 開発事業	地場産物を活用した加工 品を新たに開発するととも に、既存の商品の販売体 制も強化し、地域の顔とな る特産品を確立する。	692,000	直営	能代西高の生徒を対象と した、新商品開発及び製 造販売の演習を行った。 (加工研修:6月19日) (販売イベント:10月20日)	山本地域振興 局	県立能代 西高等学 校生徒	平成25年4月1日	新商品開発にあたり、基 本的な製造技術を5名が 習得し、梅を使った洋菓子 等の試作、製造、販売ま でを実施。普通の小売店 で販売しているレベルの 試作品の出来映えに自信 を深めている。	製造原価までのコスト意 識しか醸成できなかった ので、流通経費、人件費、 品質管理までのコストも意 識付けが必要である。
						平成25年6月19日から 平成25年10月30日まで				海産品を使った特産物の 首都圏販路拡大を実施し た。 (10月29日～30日)			漁業協同 組合女性 部「ひより 会」	平成26年10月31日	
農林部	高田 清晃	農業振興 普及課	産地技術 班	横井 直人	0185-52- 1241	とっておき白神グリーン ツーリズム事業	農家民宿を中心としたツ アーコースの企画や農家 レストランにおいてイベ ントを開催することにより、 農村への集客を図り、特 産品開発や直売所の取組 強化との相乗効果をあげ る。	219,000	直営	三種町の魅力をより多く発 信できる夏休み期間を活 用して、体験と食材を用い たモデルツアーを実施し た。	山本地域振興 局	管外から の宿泊客	平成25年4月1日	じゅんさいの摘み取り体験 など、地域に賦存する文 化や特産物を活用した魅 力をモデル的に発信した ほか、主催側としても身近 な素材の活用を再確認で きた。	数あるグリーンツーリズム 情報の中から、いかにして 三種町を選択してもらえる ようにするか、専門家から の意見を聞くなど、更に工 夫を凝らす必要がある。
						平成25年11月1日から 平成25年11月2日まで							直売所の利用客を対象と した需要調査を実施し、直 売所としての魅力アップの 手法を探る。		
農林部	高田 清晃	農業振興 普及課	就農支援 班	泉 誠	0185-52- 1241	みんなおいでよ直売所モ デル事業	農産物直売所において、 加工体験や情報発信への 取組を強化することによ り、直売所の集客力の向 上を図る。	200,000	委託	直売所の利用客を対象と した需要調査を実施し、直 売所としての魅力アップの 手法を探る。	山本地域振興 局 グリーンメッセ 縄文	グリーン メッセ縄文 の利用客	平成25年4月1日	出口調査の実施により、 自分では気づかない、利 用客からの視点での問題 点を把握できた。	品揃えやグリーンピアを利用 する客層など、他の2店 と同様に判断できないた め、他店でも何らかの調 査を実施する必要がある。
						平成25年10月16日から 平成25年10月17日まで									